



症状によっては
登園停止の
必要があるもの

気をつけよう！ ヘルパンギーナ

現在こども園にて、ヘルパンギーナのお子さんが数名出ておりますので、お知らせいたします。特に、夏に流行しやすい感染症です。

その他、熱症状や下痢・軟便症状のお子様がみられます。気になる症状が見られましたら、早めの受診をお願いいたします。

* **登園届(保護者記入)が必要**…入園のしおり P.10、P.11

6月22日、鹿児島県内全域にヘルパンギーナ流行発生警報が発令されています。
南九州市内においても、インフルエンザや新型コロナウイルスも増えているようですので、お気をつけください。

その他の伝染病(出席停止の必要があるもの)

ヘルパンギーナ

潜伏期間…2～4日

感染経路…経口・飛沫感染です。

登園基準…医師の判断によります。糞便のみからウイルスが排泄されている場合は、一般的な予防方法を行えば、登園は可能です。

主な症状

乳幼児の間で流行する夏かぜの一種です。39℃前後の熱が2・3日続き、のどの奥に小さな水疱ができるため食欲が落ち、吐くこともあります。2・3日で水疱がつぶれて痛みが増し、つばを飲み込むのでさえ痛がります。よだれが多くなることもあります。およそ一週間で水疱は治まってきます。高熱が出た時点で医師の診断を受けましょう。

「ヘルパンギーナ」に注意

のどの奥に水ぼうがができる「ヘルパンギーナ」がはやっていきます。夏かぜの一種でそれほど心配はありませんが、のどの痛みが強く、食事や水分がとりにくくなるのが特徴。高熱が3日以上続いたり、水分をとれないようなときは急ぎ病院へ。

症状

- 38～40℃の高熱が2～3日続く
- のどの奥に白いぶつぶつができる
- のどの痛み
- 食欲不振など

ケア

- かぜと同じケア
- こまめな水分補給
- 薄味のスープや豆腐、プリンなど、のどごしと消化のよい食事



熱が下がって1日以上たち、いつもどおり食事ができるまでは、園をお休みしましょう。

ヘルパンギーナにかかったら……

まず水分補給！

ヘルパンギーナは、突然の発熱と、のどの奥に水ぼうがができる病気。のどの痛みが強いので、ミルクや離乳食を嫌がることがあります。こまめに水分補給をして脱水に注意してください。

水分はスプーンでひと口ずつ

コップやストローを嫌がるときは、スプーンで一さじずつあげると、飲みやすくなります。

離乳食は一段階前のものを

柔らかく煮て、のどごしのよいものをあげましょう。一段階前の離乳食にすると食べやすくなります。

痛みが強く、水分をまったく飲めないときは病院を受診しましょう。